

I 川内中央中学校区の小中一貫教育の基本的な考え方

1 小中一貫教育が取り組まれている背景

現在、全国各地で地域の実情に応じた小中一貫教育の取組が進められている。この取組の背景には以下のようなことが要素としてあげられている。

- (1) 教育基本法、学校教育法の改正による義務教育の目的・目標規定の新設
 - ・教育基本法第5条2項、学校教育法第21条
- (2) 近年の教育内容の量的・質的充実への対応
 - ・知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視して、教科によっては授業時数が実質的に1割程度増加し、教育内容の質・量とも充実した。
- (3) 児童生徒の発達の早期化等に関わる現象
 - ・児童生徒の生理的成熟の早期化、小学校高学年の自尊感情の低下等
- (4) 中学校進学時の不登校、いじめ等の急増など、「中1ギャップ」への対応
 - ・小・中学校間の教育活動の差異が、児童生徒の発達状況とのずれなどが過度なものとなる場合にいわゆる「中1ギャップ」の背景になりうる。中学校の学習・生活に対する肯定的思いの低下。
- (5) 少子化等に伴う学校の社会性育成機能の強化の必要性
 - ・地域コミュニティの衰退、三世帯同居の減少、共働き世帯や一人親世帯の増加、世帯あたりの子どもの数の減少といった背景の中で、家庭や地域における子どもの社会性育成機能が弱まっている。

2 薩摩川内市の小中一貫教育（連携型）のねらい

- 小・中学生の交流活動や、小中学校教員の授業交流を通して、
 - ・小学生へは、中学生へのあこがれを持たせ、中学校生活への意欲を高める。
 - ・中学生へは、小学生への優しさや思いやりの発揮を通して、リーダーシップ力を高め、自分への自信を持つ。
 - ・教員は、相互に協力し学び合うことで、自らの教育観を豊かにし、指導力の向上を図る。

3 薩摩川内市の小中一貫教育の推進の重点

- (1) 『4・3・2制』を生かした交流活動の充実
「中期」を中心にして、9年間を見通した交流活動や授業交流を進める。
- (2) 「ふるさと・コミュニケーション科」の充実
ふるさとの自然や歴史文化などを学習することにより、ふるさとを愛する心を育み、異年齢集団で学び合う中でコミュニケーション能力を高め合う。
- (3) 小学校英語活動
低学年で10時間、中学年で25時間、高学年で35時間、中学校英語教諭やALTとの共同授業、GTの活用

4 川内中央中学校区がめざす学校像とめざす児童・生徒像

校区の小中一貫教育の目標並びに「めざす学校像」「めざす児童・生徒像」を基本に、各学校でそれぞれの学校の特色を生かしながら、「めざす学校像」「めざす児童・生徒像」を設定し、具体的な取組を推進する。

- (1) 川内中央中学校区がめざす学校像
 - 1 あいさつと笑顔があふれる学校
 - 2 意欲的に学習に取り組む学校
 - 3 地域に開かれた学校



(2) めざす児童・生徒像

川内中央中学校区	1 確かな学びを身に付けた児童生徒	前期	1 学習のきまりを守り、協力しながら進んで学びに取り組む児童 2 ルールを守り、だれとでも仲良くでき、元気な児童
		中期	1 学習習慣を身に付け、目的を持って、他とかかわりながら自主的に学びに取り組む児童生徒 2 規範意識を持ち、相手の立場で考え行動できる健康な児童生徒
	2 心豊かでたくましい児童生徒	後期	1 将来を見つめ、目標に向かって主体的に学びに取り組み、協働できる生徒 2 規範意識を持ち、お互いの個性や立場を理解し、かかわり合い、心身の健康な生徒

5 川内中央中学校区で取り組む連携型小中一貫教育とは

薩摩川内市が取り組む連携型小中一貫教育は、既存の学校施設を活用しながら、6・3制のよさや、各中学校区の特色ある教育活動を生かしながら取り組むことができる教育である。本校区でも、平成21年度から取り組んでおり、児童・生徒の発達の段階に応じた義務教育の9年間を見通した一貫性・継続性・発展性のある具体的な計画と手立てによる「つなぐ学力9年プラン」に基づいた「体験入学」や「授業交流」、「小小交流」、「小中交流」、「部活動体験入部」等に取り組むことで、これからの社会を生きていく子どもたちに、確かな学びや豊かな心、たくましい身体を育むことを目指している。(H28.3.22 文科省省令により、薩摩川内市の「連携型」の名称は今後検討)

6 川内中央中学校区の小中一貫教育の目標

確かな学びと心豊かでたくましい児童・生徒の育成
～つなぐ学力9年プランによる教育実践を通して～

(1) 「つなぐ学力9年プラン」とは

- ア 小・中学校間の学力観・指導観等の確立
- イ 義務教育の9年間に取り組む、一貫性・継続性・発展性のある具体的な計画と手立てによる教育実践

教科指導計画、小・中指導内容関連表、9年間を見通した一貫性・継続性・発展性のある言語活動、研修計画、研修の構造、交流授業推進モデル(交流授業)、小中合同の学力分析
ふるさとコミュニケーション科

(2) 確かな学びとは

- ア 学力の重要な三要素を身に付ける学び

基礎的・基本的な知識・技能
知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
主体的に学習に取り組む態度

(3) 心豊かとは

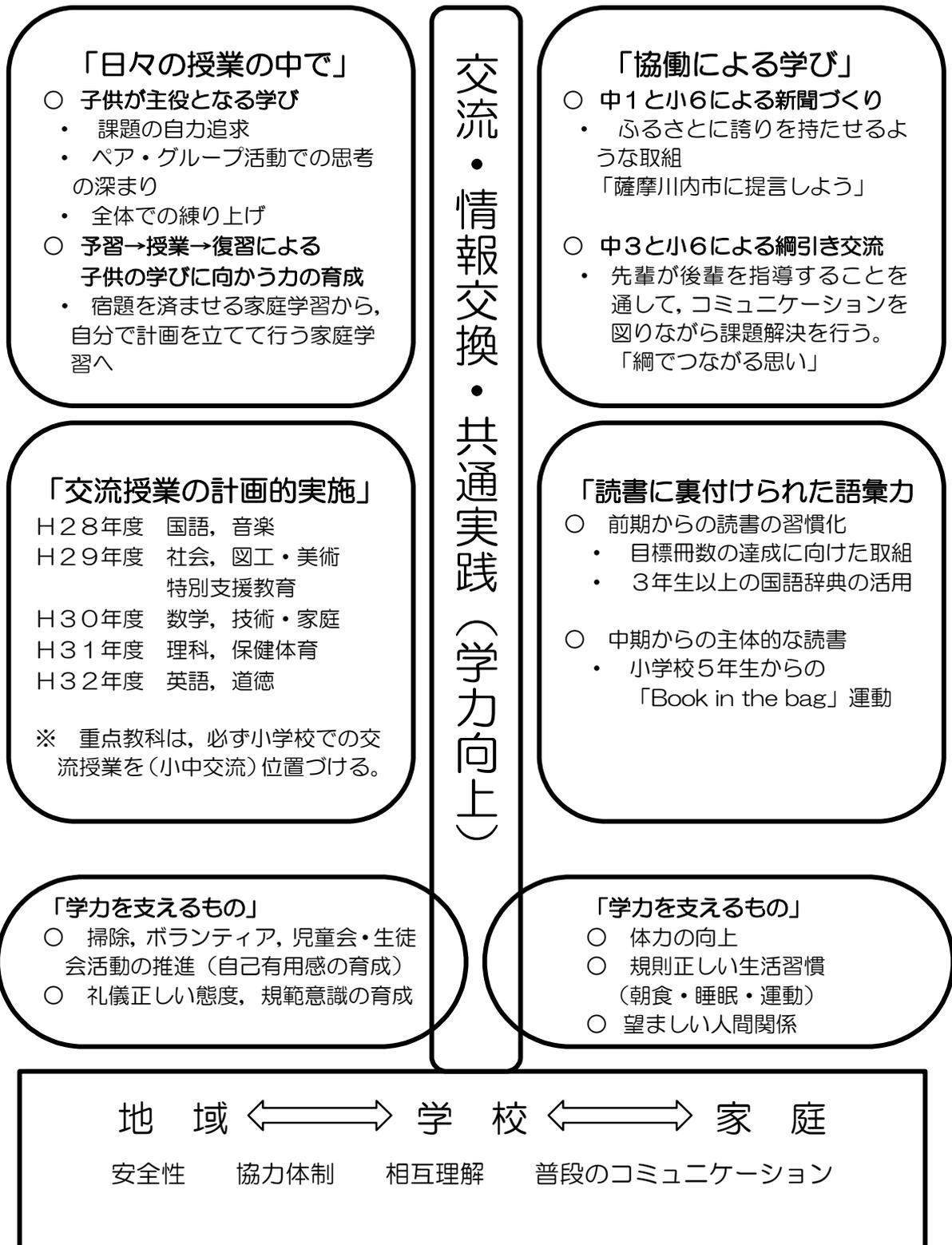
- ア 感性「心に価値や心情を感じ取る力」の高まり
- イ 道徳性の高まり(道徳的思考力・判断力、しつけ・モラル・マナーなど心の形、自己抑制・自己規制力、反省心など)
- ウ 自己価値意識の形成(自分のよさの自覚、自己存在感、成就感、自己有効感、自尊感情の高揚、夢や目標の自己形成 など)
- エ ユーモアや豊かなコミュニケーションの涵養(楽しい笑い、直接的なふれあい、美しく豊かなものや心情等とのふれあい、共同感動体験など、)

(4) たくましさとは

- ア 基礎体力の向上
- イ 健康的な身体づくり
- ウ 自己肯定感による精神的な強さ など

(5) 川内中央中学校区の小中一貫教育 学力向上「4つ葉のクローバープロジェクト」

学力向上「4つ葉のクローバープロジェクト」



Ⅱ 川内中央中学校区における小中一貫教育の方向性

1 つなぐ学力9年プランによる教育の推進

(1) 発達の段階に即した学年区分

児童生徒の生理的成熟の早期化や小学校高学年の自尊感情の低下、中学校進学時の不登校、いじめ等の急増など、6・3制の義務教育制度が施行された時代と比べて、児童生徒の心身の発達や児童生徒を取り巻く社会環境は大きく変化し、従来の6・3制の区分では、児童生徒の心身の発達等の実態にそぐわない面が見られるようになってきている。そこで、これらの課題等に対応すべく小学1年～小学4年を「前期」、小学校5年～中学1年を「中期」、中学2年～中学3年を「後期」という義務教育9年間を児童生徒の発達の段階に即した4・3・2制の区切りで捉えて教育を推進している。

(2) 小中一貫教育を進めるための教育課程の編成

平成21年度から取り組み始めた小中一貫教育を進めるにあたり、それまで各学校において全職員の創意と協力のもとに家庭や地域の願いを反映させながら、学校教育目標の達成を目指し、教育課程の編成を行ってきた。

川内中央中学校区の小中一貫教育では、平成21年度～平成26年度まで、「確かな学力の定着」「自己表現力の育成」「豊かな心・健やかな体の育成」を目指し、9年間の系統性や一貫性を持たせながら心理的・身体的発達、あるいは成長にかかわる変化など、児童生徒の現状に応じて「導入期」「接続期」「完成期」という区分で教育課程を編成してきた。

そして、平成27年度からはじまる小中一貫教育の新しいステージに向けて、これまでの取組を振り返り、「確かな学びと心豊かでたくましい児童・生徒の育成」という小中一貫教育の新たな目標を設定し、つなぐ学力9年プランに基づく教育課程の編成の工夫を行い、実践を進めていくことにした。

(3) つなぐ学力9年プランについて

本校区で、小中一貫教育に取り組むにあたり、小学校、中学校間の学力観や指導観等の確立をはじめ義務教育の9年間を通して、一貫性・継続性・発展性のある具体的な計画と手立てによる教育実践を進めていくことが大切であると考え、本校区では、これらの基本的な考えや計画、手立てを「つなぐ学力9年プラン」という名称で呼ぶことにした。5(1)アでも触れてあるとおり、具体的な計画や手立てとしては以下のとおりである。

ア 教科指導計画

小中一貫教育に取り組む以前の本校区の各小学校と中学校は、それぞれの学校で、教科の「目標」や「育てたい力」を設定してきた。平成21年度からの小中一貫教育に取り組むにあたって、9年間を見通した「教科目標」や「発達段階に応じた目標」、「育てたい力」、「評価規準」による教科指導計画を作成し、共通実践に取り組んでいる。

イ 小・中指導内容関連表

一貫性・継続性・発展性のある学習指導に取り組むために、小・中学校合同の教科部会で各教科等の9年間の指導内容の系統性を十分把握、児童生徒の実態に即した重点指導項目を設定し、9年間で計画的に確実に指導できるように教科指導計画を作成する。

〔小・中指導内容関連表（数学）〕

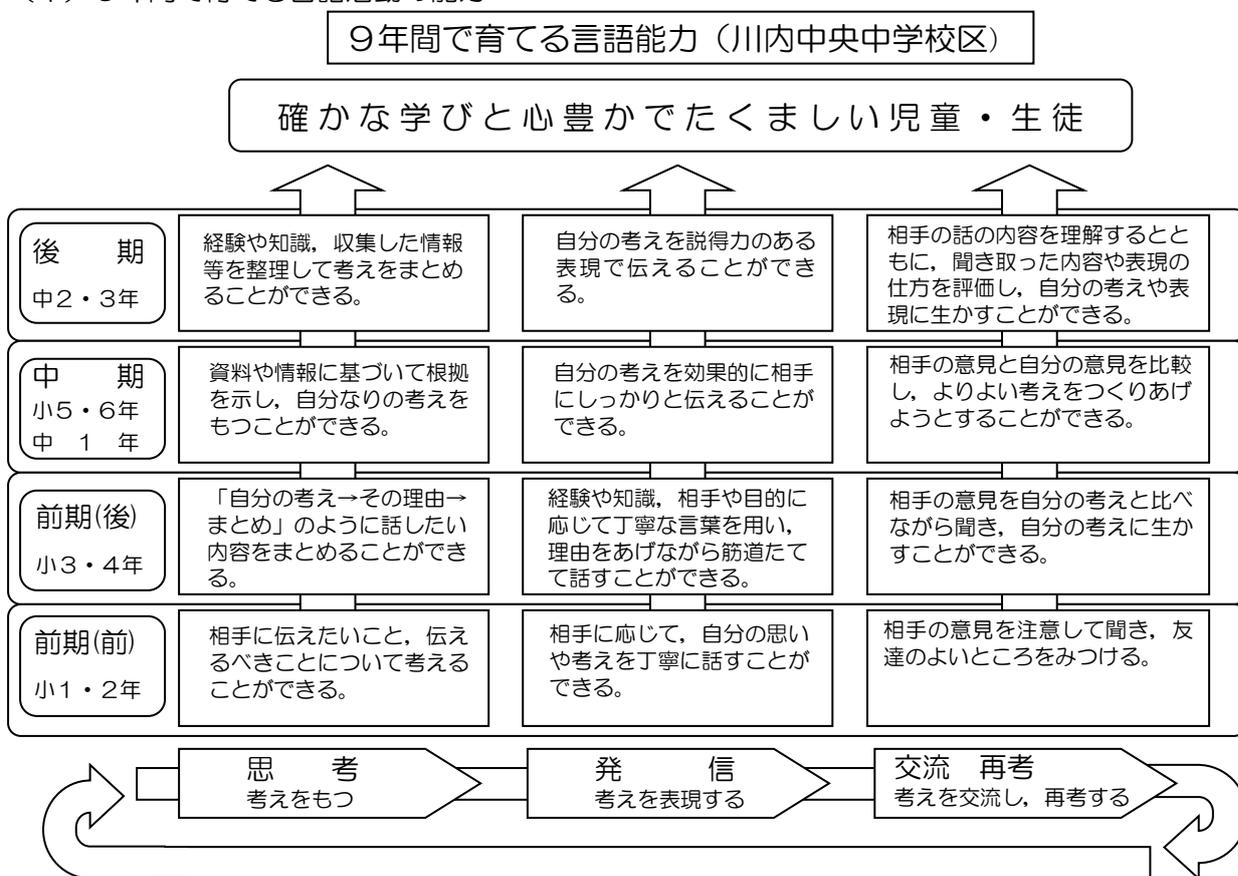
ウ 9年間を見通した一貫性・継続性のある言語活動

言語は、知的活動（論理や思考）だけでなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤となっている。言語活動の充実には、現行の学習指導要領において、各教科を貫く重要な視点となっている。具体的な言語活動の例としては、国語科においては、漢字の読み書き、音読暗唱、対話、表現などにより基本的な国語力を定着させること、また、古典の暗唱などにより言葉の美しさやリズムを体感させるとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培うと示されている。

(ア) 言語活動の充実の意義

- ① 各教科において学んだ言葉（用語）を大切に、「感じ取ったことを言葉で表す」「具体物を用いて説明する」「自分の考えをまとめて論述する」「紹介したいことを文章に書く」などの言語活動を充実させることにより、思考力・判断力・表現力が育まれる。
- ② 言語活動を充実することが、知識や技能の確かな定着にもつながる。

(イ) 9年間で育てる言語活動の能力



エ 研修計画

義務教育9年間の一貫性・継続性・発展性のある授業づくりをめざし、小中教員の合同の教科部会を開催し、校種を越えてのNRTの分析結果を基にした研修やそこから導き出される教科としての課題、その課題を解決するための研究テーマや研究目標の設定、年間の研修の進め方についての研修計画を作成する。

オ 研修の構造

研修計画で設定した研究テーマを実現するために、義務教育9年間の指導内容の系統性を十分に把握し、児童生徒の実態に即した重点指導項目を設定し、9年間の中で計画的に指導が実勢できるようにする。

カ 交流授業推進モデル（交流授業）

義務教育9年間の一貫性・継続性・発展性のある学習指導を具現化するために、小中教員相互の乗り入れによる「交流授業」を積極的に推進していく。それぞれの学習指導の持ち味を生かす授業を模索することは、教員の指導力向上につながるとともに学習や教師に対する児童生徒の不安感の軽減にも有効に働く。交流授業を円滑かつ、効果的な実施ができるよう「交流授業推進モデル」の作成と「交流授業記録」の共有と蓄積を図る。

キ ふるさと・コミュニケーション科の取組

(ア) ふるさと・コミュニケーション科のねらい

薩摩川内市

郷土を素材に、郷土に学び、郷土を理解させるとともに、将来にわたってふるさとと薩摩川内を誇りに思う子どもを育成します。

併せて、望ましい人間関係を築く力や自分の思いや考えを効果的に表現するコミュニケーション能力などを育て、子ども一人一人の学力や豊かな心をはぐくみます。

本校区

自分を取り巻く人、社会、環境（ふるさと）とのかかわりの中で、「自己表現力」「人間関係構築力」等、他教科との関連を図った確かな言語力に基づく「コミュニケーション能力」を育成するとともに、社会の中でよりよく生きようとする意欲や態度を培います。

(イ) ふるさと・コミュニケーション科で目指すもの

子どもたちが各教科等の学習で得た「言語力」と関連させて

「人間関係構築力」「自己表現力」「将来設計能力」等「生きる力」を培います。

ク 小学5・6年生による体験入学の実施

小学5・6年生は、小中一貫教育の「中期」を迎え、中学校での新たな学習や友人関係に対して不安を感じるようになってくる。これがいわゆる「中1ギャップ」の原因の一つになっている。本校区では、中学校への入学を前にした「中期」に小学5・6年生による中学校での体験入学を実施することにより、入学後の教科担任制や学習内容の変化、心理的な不安から生じるギャップを和らげることで、中学校生活に対して夢と希望を持って進学できるように本活動を実施している。

(ア) 目的

- ① 中学生との交流授業や中学校教諭による体験授業を通して、中学校での学習に対する不安を取り除き、目標を持って学習しようとする意欲を持たせる。
- ② 3小学校の児童と中学生が交流授業や学校生活を一緒に行うことにより、お互いを思いやる心や協力することの大切さを学び、異年齢習題でのよりよい人間関係を築いていけるようにする。
- ③ 新たな集団の中で自分の意見を伝えたり、他者への理解を深めたりする活動を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。
- ④ 保護者に対し、中学校での入学説明会等を実施することにより、本市における小中一貫教育や中学校の教育活動への理解を深める。

理科 交流授業推進モデル

A 小学校における交流授業モデル(T1,T2の役割)		A 小学校における交流授業の実践例	
役割	役割	T1(小学校教諭)	T2(中学校教諭)
1 指導案の作成	1 指導案で学習内容	○ 指導案の作成・修正 ○ 指導案の作成・修正 ○ 指導案の作成・修正	○ 指導案の作成・修正 ○ 指導案の作成・修正 ○ 指導案の作成・修正
2 授業準備	2 授業準備	○ 授業準備 ○ 授業準備 ○ 授業準備	○ 授業準備 ○ 授業準備 ○ 授業準備
3 授業実施	3 授業実施	○ 授業実施 ○ 授業実施 ○ 授業実施	○ 授業実施 ○ 授業実施 ○ 授業実施
4 授業振り返り	4 授業振り返り	○ 授業振り返り ○ 授業振り返り ○ 授業振り返り	○ 授業振り返り ○ 授業振り返り ○ 授業振り返り
5 評価	5 評価	○ 評価 ○ 評価 ○ 評価	○ 評価 ○ 評価 ○ 評価

〔交流授業推進モデル（理科）〕

(イ) 実施日と対象児童

川内中央中学校2年生の職場体験学習の時期に実施する。※例年2月中旬実施

川内小学校・平佐西小学校・平佐東小学5年生・・・1日間

川内小学校・平佐西小学校・平佐東小学6年生・・・2日間

※6年生の体験入学2日目に入学説明会を開催

ケ 「小小交流」, 「小中交流」の実施

「小小交流」では、本校区の小学校学校の同学年・異年齢での集団で授業を行ったり、ゲーム活動を行ったりすることで、小規模校の児童にとっては、より多くの人とのかかわりから学び、大規模校の児童にとっては、他校の児童との交流から新たな人とのかかわりについて学ぶ。

「小中交流」では、異年齢による交流を通して、小学生は中学生に頼もしさを感じ、先輩に対するあこがれを持つ。中学生は小学生に対して、優しさや思いやりの発揮を通して、リーダーシップ力を高め、自分への自信を持つ。

コ 小学5・6年生による体験入部の実施

小中一貫教育の一環として、小学校5・6年生を対象とした体験入部を実施することで、中学校における部活動への理解を深めるとともに、中学校への進学に対する夢や希望をもたせる。

(ア) 実施時期

夏休み中の3日間（※平成28年度は8月26・27・28日に実施）

(イ) 実施時間

8：30～10：30

(ウ) 実施部活動

男子バスケットボール部, 女子バスケット, 女子卓球, 剣道, 野球, 陸上, サッカー, 男子ソフトテニス部, 女子ソフトテニス部, 男子バレー, 女子バレー吹奏楽部, 美術, 科学部

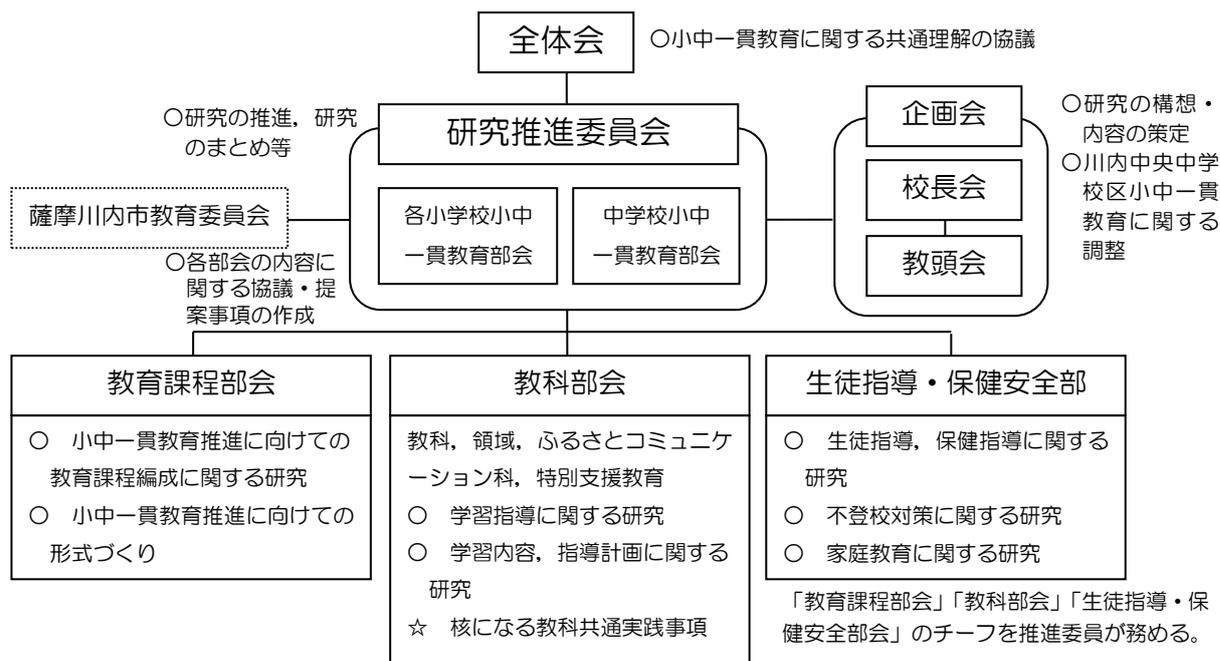


2 各教科等の授業時数について

(1) 川内中央中学校区総授業時数について（平成24年度～）

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数											道 徳	特 活	英 語 活 動 (小)	シヨウコ科 ふるさと・コミュニケー	総 合	総 授 業 時 数	
	国 語	社 会	数 学	理 科	生 活	音 楽	美 術	体 育 (小)	保 健 体 育 (小)	家 庭 (小)	技 術 ・ 家 庭							外 国 語
小 学 校	前 期	1 年	306		136		87	68	68	102			34	34	10	15		860
		2 年	315		175		90	70	70	105			35	35	10	15		920
	中 期	3 年	245	70	175	90		60	60	105			35	35	25	35		945
		4 年	245	90	175	105		60	60	105			35	35	25	35		980
中 学 校	中 期	5 年	175	100	175	105		50	50	90	60		35	35	35	60		980
		6 年	175	105	175	105		50	50	90	55		35	35	35	60		980
	後 期	1 年	135	105	140	105		45	45	105	70	140	35	30		60		1015
中 学 校	後 期	2 年	135	105	105	140		35	35	105	70	140	35	30		80		1015
		3 年	100	140	140	140		35	35	105	35	140	35	30		80		1015

3 小中一貫教育研究組織



4 平成29年度小中一貫教育に関する研究の方向性

(1) 研修体制、合同研修会の設定

- ア 会の運営・組織については29年度の実績を基に行い、企画会、教頭会、研究推進委員会を年間計画に位置付ける。
- イ 部会の実施については、電話やメール、テレビ会議、ウェブシステム等を利用し、時間と移動に伴う負担軽減を図る。
- ウ 教科部会は、教科の研修計画を基に主体的に取組が進むよう教科間で成果を共有する。
- エ 年度当初に各学校において、本校区の小中一貫教育についての研修を行い、共通理解、共通実践が図れるようにする。

(2) 授業の充実に向けて

- ア 重点教科を中心としながら、交流授業モデルに基づき年1回以上の交流授業実践を目標にしつつ、28年度の成果と課題を反映した指導法改善を工夫していく。
- イ 「授業を変える」という視点から具体的方策や「確かな授業づくり10の提言」の自校化と共通実践による学力向上をめざす。また、各教科の指導の重点を明確にし、共通実践する。さらに、「学習のしおり」「家庭生活のしおり」等を確実に実践につなげる。
- ウ 事前の指導案検討、授業準備の効果的・効率的進め方についても実践を通して改善を加えていく。

(3) 児童・生徒の交流活動の充実に向けて

- ア 28年度の成果を踏まえ、交流活動を実施していく。
- イ 前期・中期・後期の交流について、先行事例等を参考に具体化を図る。
- ウ 実施後は、アンケート調査等を実施し、成果と課題を明らかにしていく。

(4) 子どもの豊かな成長に向けて

- ア 生徒指導・保健指導の共通実践事項を各学校の教育課程に位置付ける。
(ア) 不登校対策等、生徒指導面の連携の強化を図る態勢整備を推進する。
- イ PTA 総会や学級PTA、地域懇談会等で、保護者や地域の方に取組の周知を図り、体験活動を通じた児童生徒の交流を促進する。
- ウ 「小中一貫教育だより」を発行し、取組の周知を図る。
- エ 小中一貫教育の成果を明らかにするために、データの蓄積に務める。

5 平成29年度小中一貫教育研修計画（案）

月	日	曜	部 会 等		内 容	備考（関連行事等）
			会 合	参 加 者		
4	11	火	教頭会	5校教頭	平成29年度の小中一貫教育の進め方について（H29実践発表を含む）	
4月3日（月）～ 4月28日（金）			川内中央中校区小中一貫教育説明会	4校全職員（各学校単位で実施）	川内中央中校区小中一貫教育について、平成28年度以前の研究の概要説明、平成29年度年間活動計画の確認、実践発表会について 他	
5	12	金	教頭会	5校教頭	平成29年度の研修計画、運営組織等について、実践発表会について	
	19	金	企画会	4校校長・教頭	平成29年度の研修計画、運営組織等について、実践発表会について	
	17	水	小中連携1年生授業参観	小学校6年生担任（旧） 川内中央中学校1年部職員	平成29年度中学1年生に関する情報交換会について	小中連携授業参観 入学生情報交換会
	30	金	4校合同研究推進委員会Ⅰ	推進委員、ふるこミュ担当、教頭	年間活動確認、体験入学日程、体験授業教科の確認・調整、4校合同教科主任会・研修会の内容、運営分担、実践発表会について	
6月1日（木）～ 6月16日（金）			小中一貫教育アンケート実施		中学校入学後の意識調査	
6	5	月	教頭会	5校教頭	平成29年度合同教科部会の企画・運営、特別支援学級交流の確認、実践発表会について	※バス利用の確認 （特別支援交流）
	10	土	小中連携緊急災害時引渡訓練		原子力防災を含む自然災害等発生時の引渡訓練を実施	関係機関への事前連絡
	22	金	川内中央中校区特別支援学級交流学習	4校特別支援学級児童・生徒 特別支援学級担当	川内中央中→川内小学校で交流学習	※バス利用の手続き
	27	火	4校合同研究推進委員会Ⅱ	推進委員、ふるこミュ担当、教頭	体験入学日程、体験授業教科の確認・調整、4校合同教科主任会・研修会の内容、運営分担、実践発表会について	
	30	金	4校合同教科主任会	4校各教科主任等	平成29年度小中一貫教育の各教科計画・内容等の共通理解「つなぐ学力9年プラン（学力分析）」作成、授業づくり、交流授業計画、H29実践発表会について	9年プラン（学力分析）は7月14日までに担当校に提出
7月3日（月）～ 7月27日（木）			授業づくりのための資料収集・準備 交流授業の準備、実施 研究授業参観	4校全職員	中期を中心としたつながりのある授業づくりのための資料収集・準備 交流授業指導案検討等 交流授業実施による指導法研修等 研究授業・参観による指導法研修	校内研究授業、フレッシュ、ステップアップ、パワーアップ研修、学力向上プログラム、拠点校指導 等
7	4	火	教頭会	5校教頭	4校合同教科・領域部会の最終確認、体験入部の打合せ、実践発表会について	小学校への体験入部案内は夏休み前、7月14日までに人数確認
	28	金	小中合同職員研修会・全体会	4校全職員	小中一貫教育、今後の教育の在り方について、実践発表会（体験入学）について	講師依頼
			4校合同教科・領域部会 小小交流打ち合わせ会	4校全職員・領域担当 等	小中教科部による学力分析、交流授業、授業づくり	平成30年度の小中一貫教育計画は、1月5日までに作成完了
			4校合同研究推進委員会Ⅲ	4校研究推進委員会	体験入学日程、体験授業教科の最終確認、体験入部、実践発表会について	
8	21	月	教頭会	5校教頭	体験入部最終確認、実践発表会について	必要に応じて実施
	24	木	小学生一日体験入部	3小学校5・6年生希望者 川内中央中部活動生	小学生の部活動体験 各部活動で期間内に実施可能日を設定する。	※バス利用の手続き（1か月前までに）
	25	金				
	30	水	4校合同研究推進委員会Ⅳ	推進委員、ふるこミュ担当、教頭	運営面について、2学期の取組について、実践発表会について	
9月1日（金）～ 12月22日（金）			授業づくり 交流授業の準備、実施 研究授業参観	4校全職員	中期を中心としたつながりのある授業づくり 交流授業実施による指導法研修等 研究授業・参観による指導法研修	校内研究授業、フレッシュ、ステップアップ、パワーアップ研修、学力向上プログラム、拠点校指導 等
10	3	火	4校合同研究推進委員会Ⅴ	推進委員、ふるこミュ担当、教頭	実践発表会について	
	10	火	教頭会	5校教頭	実践発表会打合せ、ふるこミュについて	
	13	金	企画会	4校校長・教頭	体験入部報告、実践発表会について、ふるこミュについて	
11月1日（水）～ 2月23日（金）			体験入学、4年生交流学習準備	小学校4、5、6年担任 川内中央中担当職員	体験入学、4年生交流学習の班編制、交流授業等の教科、担当者決定、指導略案の作成	
各校で設定			「命の尊さを考える」道徳授業公開	4校職員、保護者、地域住民	道徳授業参観実施	各学校
11	7	火	4校合同研究推進委員会Ⅵ	推進委員、ふるこミュ担当、教頭	実践発表会について	
	17	金	小学4年交流体験活動	4小4年生（平佐東小は3年生も） 当該学年職員	市少年自然の家での交流体験活動	※バス利用の手続き
	21	火	平佐東小→川内小学校交流活動	平佐東小全児童・職員 川内小全児童・職員	平佐東小全児童が川内小を訪れ交流学習を行う。	※バス利用の手続き
12月1日（金）～ 12月8日（金）			小中一貫教育アンケート実施	4校教員・保護者・児童・生徒	教員、保護者、児童・生徒用アンケートの実施、集計（薩摩川内市）	各小学校は集約後川内中央へ提出
12	11	月	教頭会	5校教頭	実践発表会打合せ	
	14	木	4校合同研究推進委員会Ⅶ	推進委員、ふるこミュ担当、教頭	平成29年度の体験入学日程と体験授業教科の検討、実践発表会実践発表会	
1	5	金	4校合同教科主任会	4校各教科主任・領域担当	平成30年度の小中一貫教育計画、平成29年度体験入学時の指導案の完成・提出、授業交流等の反省	
			4校合同研究推進委員会Ⅷ	推進委員、ふるこミュ担当、教頭	平成30年度小中一貫教育冊子原稿作成について、実践発表会について	
	15	月	教頭会	5校教頭	実践発表会打合せ	

月	日	曜	部 会 等		内 容	備考（関連行事等）
			会 合	参 加 者		
1	30	火	企画会	4 校校長・教頭	実践発表会について	
2	14	水	体験入学・授業公開事前打ち合わせ会、実践発表準備、模擬授業	各小学校 5、6 年担任 4 校全職員	体験入学、交流授業、実践発表会について（実践発表準備、模擬授業）	
	20	火	体験入学準備、実践発表会準備	4 校全職員	体験入学、交流授業、実践発表会について（実践発表準備、模擬授業）	
	21	水	小学 5 年生体験入学	各小学校 5 年生・職員	体験入学について	※バス利用の手続き
			川内中央中学校区実践発表会準備	4 校全職員	実践発表会準備	
	22	木	小学 6 年生体験入学	各小学校 6 年生・職員・川内中央中職員、保護者	交流授業、体験授業、H29 実践発表会について	※バス利用の手続き
			川内中央中学校区実践発表会	4 校全職員	実践発表会（公開授業、全体会等）	
23	金	小学 6 年生体験入学	各小学校 6 年生・職員・川内中央中職員、保護者	交流授業、体験授業	※バス利用の手続き	
		平佐東小一平佐西小交流活動	平佐東小 1 年～5 年生職員 平佐西小 1 年～5 年生職員	平佐東小児童と平佐西小児童による交流活動		
23	金	入学説明会	各小学校 6 年生・職員・川内中央中教頭・生徒指導、保護者	入学説明会		
3	5	月	企画会	4 校校長・教頭	実践発表会反省、次年度の計画について	
	未定		4 校合同研究推進委員会Ⅶ	推進委員、ふるコミュ担当、教頭	平成 30 年度小中一貫教育冊子原稿作成及び次年度の計画について	
	23	金	小中連絡会 ※平佐東小 2 3 日	各小学校 6 年担任、川内中央中 3 年職員・生徒指導	平成 30 年度入学生に関する情報交換会	3 月 22 日小学校卒業式

〔資料〕家庭生活のしおり

川内中央中学校区 家庭生活のしおり

川内中央中学校区 小中一貫教育推進委員会

川内中央中学校区（川内小学校、平佐西小学校、平佐東小学校、川内中央中学校）では、小中一貫教育の取組の一つとして、義務教育 9 年間の「家庭生活のしおり」を作成しています。このしおりには、学校と家庭との協力・連携を深めながら、校区全体で取り組んでいくことをまとめてあります。校区の全てのご家庭で実践していただき、児童・生徒のより良い成長を目指しましょう。 ※家族で話し合って学びの目標・生活の目標・ノーマメディアーを設定しましょう。

学びの目標

ノーマメディアー

曜日

生活の目標

【家庭学習の目標時間：学年 × 10 分 + 30 分】

学年	めざす家庭学習	時間
小学 1 学 2 年	「やるき」をたいせつにしよう ☆ いえにかえたら、まいにち、きまったじかんにがくしゅうしましょう。 ☆ がっこうでがくしゅうしたことを、もういちど、ふくしゅうしましょう。	40 分 50 分
	小学 3 学 4 年 「自学への」一歩を大切にしよう ☆ 自分で学習内容を決め、一人で学習できるようにしましょう。 ☆ プリント学習では、自分で答え合わせして、間違ったところをもう一度やり直しましょう。	60 分 70 分
小学 5 学 6 年	「自立性」を大切にしよう ☆ 学習の目標を決め、計画的に自分から進んで学習に取り組もう。 ☆ 苦手などところを見つけて、質問・相談ができるようになろう。	80 分 90 分
	中学 1 年 ☆ 学習課題を決め、継続的に予習復習に取り組もう。 ☆ 苦手などところを見つけて、克服する方法を学習しよう。	100 分
中学 2 学 3 年	「将来の目標（夢）」を大切にしよう ☆ 将来の目標（夢）を決め、実現へ向けて学習しよう。 ☆ 日々の学習を、計画的・継続的に取り組もう。	110 分 120 分

前期

小学 1 学 2 年
「せいかつのリズム」をたいせつにしよう
☆ はやね、はやおきて、すいみんじかんをたっぷりとりましょう。
☆ こはんは、さんしょく、すききらいしないでしっかりたべましょう。
☆ いちにちのじかんのつかいかたを、かぞくではなしあいましょう。

小学 3 学 4 年
「基本的な生活習慣」を身につけよう
☆ 元気のいいあいさつをしましょう。
☆ 手洗い・うがいをする、外で遊ぶなど健康な生活に心がけましょう。
☆ 次の日の準備は自分でしっかりできるようにしましょう。

小学 5 学 6 年
家族の一員として「自分の役割」を果たそう
☆ 生活のルールを守り、自分の行動に責任をもとう。
☆ 場にあった言葉づかいや行動ができるようになるう。
☆ 自分を支えてくれる人々に感謝の気持ちをもとう。

中期

中学 1 年
☆ ルールを守り、周囲と調和のとれる行動をとろう。
☆ 家族と協力し、自分の役割に責任をもって取り組もう。

後期

中学 2 学 3 年
「目標」に向け、自分を律すると共に集団の向上に努めよう
☆ 規範意識を大切にするとともに、自己の言動に責任をもとう。
☆ 仲間と協力して、集団生活の向上のために積極的に取り組もう。
☆ 周囲への感謝の気持ちをもつと共に、自分ができることを実践しよう。

H27.11 改訂



〔体験入学登校風景〕



〔体験授業風景〕

川内中央中学校区 小中一貫教育輪番制一覧表

1 全体の世話の担当校(研究推進委員会の進行・・・中央中, 平佐西小, 川内小で輪番)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
担当校	川内小	中央中	平佐西小	川内小	中央中	平佐西小	川内小	中央中

2 「つなぐ9年実践プラン」データ集計 (※印刷は各学校)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
担当校	川内小	中央中	平佐西小	川内小	中央中	平佐西小	川内小	中央中

3 4校合同教科等部会全体会進行係

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
担当校	平佐東小	平佐西小	中央中	川内小	平佐東小	峰山小	平佐西小	中央中

4 「小小交流」担当校

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
4年生	川内小	平佐東小	平佐西小	川内小	峰山小	平佐東小	平佐西小	川内小
5年生	平佐西小	川内小	峰山小	平佐東小	平佐西小	川内小	平佐東小	平佐東小
6年生	平佐東小	平佐西小	川内小	峰山小	平佐東小	平佐西小	川内小	峰山小

5 教科領域部会進行係(進行及び記録用紙の提出)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
国語	平佐西小	川内小	平佐東小	峰山小	中央中	平佐西小	川内小	平佐東小
社会	中央中	平佐西小	川内小	平佐東小	峰山小	中央中	平佐西小	川内小
数学	平佐東小	中央中	平佐西小	川内小	平佐東小	峰山小	中央中	平佐西小
理科	川内小	平佐東小	中央中	平佐西小	川内小	平佐東小	峰山小	中央中
英語	平佐西小	川内小	平佐東小	峰山小	中央中	平佐西小	川内小	峰山小
音楽	中央中	平佐西小	川内小	平佐東小	峰山小	中央中	平佐西小	川内小
美術	平佐東小	中央中	平佐西小	川内小	平佐東小	峰山小	中央中	平佐西小
技術・家庭	川内小	平佐東小	中央中	平佐西小	川内小	平佐東小	峰山小	中央中
保健体育	平佐西小	川内小	平佐東小	峰山小	中央中	平佐西小	川内小	峰山小
特別支援	中央中	平佐西小	川内小	平佐東小	峰山小	中央中	平佐西小	川内小
養護	平佐東小	中央中	平佐西小	川内小	平佐東小	峰山小	中央中	平佐西小
生活	川内小	平佐東小	平佐西小	平佐西小	川内小	平佐東小	峰山小	中央中
ふる・コミュ	平佐東小	平佐西小	川内小	平佐東小	峰山小	中央中	平佐西小	峰山小

※ 生活科とふる・コミュの教科部会については、小学校3校で進行を行う。

※ ふるさと・コミュニケーション科に教科部会には、小6と中1の担任も参加する。

6 重点教科

H29	H30	H31	H32
社会, 図画・工作, 特別支援教育	数学, 保健体育	理科, 技術・家庭	英語, 道徳

